



祝・ご卒業 卒業式並びに中医薬膳師資格認定式が行なわれました



去る2010年10月30日(土)銀座の薬膳の専門店星福にて2010年度本学院秋期卒業式並びに中医薬膳師の資格授与式が行なわれました。卒業生、関係する講師を併せて12名の出席で和気藹々とした雰囲気の中で行なわれました。本校学院長辰巳洋先生よりお祝辞を頂き、卒業証書並びに中医薬膳師資格証が各自に授与されました。安里清子先生の祝辞に続いて、卒業を代表して12期生の末永寧子さんより学院への感謝の言葉が述べられました。東京・神奈川・千葉・大阪・長野・埼玉・岐阜から幅広い年齢の方々が参加され、第12期生並びに通信生の卒業生の方々のこれからの活躍が期待されます。卒業式の後、薬膳料理で祝賀食事会を行い終始和やかな雰囲気でした。



卒業生並びに中医薬膳師合格者名簿 (敬称略)

- 12期卒業生** 福田和愛 末永寧子 須釜貴美子 高橋雅枝 椎名生美
通信卒業生 伊藤沙織 荘加ふみ子 篠原翼(男) 平林蘭奈 黒江恵美子 高橋明子 松田幸子

本日、ご卒業される十二期生・通信生の十二名の皆さん、おめでとうございます。通学1年間、または自分の時間によって通信で1年2年勉強し、あつという間に終わりました。最初、薬膳を勉強しようと思って、本学院を選んで入学しましたが、読めない漢字、分からない内容、次々に配られる宿題、それに皆さんが家事・仕事など忙しい日々を過ごされる中で学習して、随分悩まされた上に、それでも続いて頑張つて卒業する今日を迎え

祝辞

『天人合一』

12期生中医薬膳師コース 末永 寧子

1日1日と秋らしくなってきた爽やかなこの良き日に無事卒業できますことを心より御礼申し上げます。

また、本日はお忙しい中、このような心温まる卒業式を開いていただき一同感謝いたします。時の流れは早いもので、一年前たくさんの教科書を渡され、戸惑いの気持ちと期待を胸に、初めての授業に出席したことはつい先日のことのように思い出されます。そもそも私が薬膳に興味を持ったきっかけは、自分の体調不良をどうにかしたいということと中国が好きだった、という気軽な理由からでした。しかし、教科書の漢字が読めないことから始まり、到達点がない中医学の奥深さを目の当たりにし落胆したことも多々ありましたが、自分の体質に当てはめて考えるとどんな学問よりもスッと腑に落ちるような明快な答えがそこにはありませんでした。劉先生の質問で始まる授業は、指されないよう皆下を向くほど厳しいものでしたが、今思えば私たちの混乱した頭を整理する、重要な項目ばかりでした。そして中国の故事、漢字の由来、体験談などを交えた話は、薬膳の理論をスムーズに関連付けるエピソードとして今でも覚えています。安里先生の授業は、先生のお人柄のおかげか笑いが絶えず、12期生わずか5名の実習は、温かな一体感があつたように思います。皆が思わず悲鳴をあげてしまったすっぽんの調理、本にも載っていないちょっとした薬膳のひと品、薬膳の独特の下ごしらえの方法など、あくまで薬膳は机上の学問ではないという実感がありました。また、課題の珍妙な回答にひたすら向き合つて採点して下さった平尾先生、お忙しいのに嫌な顔ひとつせず私たちをお世話して下さった島田先生にも心より感謝申し上げます。中国の思想に「天人合一」という言葉があります。人間は自然の中の一部であり、人間の身体は季節の移り変わりと深く関わり、背いて生きていくことはできない、という意味です。季節感を無視した食生活を送りがちな現代人にとって、この言葉はとても大切な意味を持つと感じます。薬膳の基本とは、まさにこういうことではないでしょうか。そして、この場で出会えた友人。こうして笑つて卒業できるのも皆さんのおかげです。私たちの道のりはまだ出発したばかりですが、この学院で学んだ知識は、一生の哲学になるでしょう。最後になりましたが、本草薬膳学院の更なるご発展をお祈り申し上げ、答辞とさせていただきます。ありがとうございました。



『共に薬膳の道を歩む仲間とし』

学院長 劉 海洋



お疲れ様でした。これから私たちは薬膳の道を歩む仲間になります。この道は長いです。学校の卒業を迎える日は新しいスタートラインになります。「学無止境」、学習するために境目が無いと昔から言われていますから、卒業してからは、①せつかく勉強した薬膳の知識を実践することは必要です。家でよく作つてください。②学校がいろいろな研究科を開設していますので、継続して勉強することは大事です。③学校の発展は先生達の努力、卒業生の皆様のおかげと考えています。これからも学校を支持し応援して下さい。ぜひ、お願い申し上げます。簡単ではございますが、お祝いの言葉とさせていただきます。本日はおめでとうございます。

